

# SENDAI Lifestyle



特集

学び、つながり、支え合う——  
日本語を学ぶ外国人と私たち

インタビュー

「教える」ではなく、「わかりあう」

座談会 学生による夜間日本語教室「HANDS」

多文化SENDAI

白い馬の会

外国につながる子どもたち

小松島小学校 (その2)

コラム

仙台ではたらく / 子育て in せんだい / 留学生サポートの現場から

CIR通信

新聞記者の「やさしい日本語」

SenTIA

Sendai Tourism, Convention and International Association

(公財) 仙台観光国際協会 (SenTIA) 国際化事業部は、言葉や習慣の異なる外国人住民や外国にルーツを持つ人々と暮らす「多文化共生」のまちづくりのため、さまざまな事業を行っています。

WEBサイト



X(旧 Twitter)



Facebook





特集

## 学び、つながり、支え合う—— 日本語を学ぶ外国人と私たち

街で困っている外国人を見かけたら、あなたはどのようにしますか？「日本語は通じなさそうだし、私は英語が話せないから…」と、声をかけるのをためらう人も多いのではないのでしょうか。実はそれ、思い込みかもしれません。仙台に暮らす多くの外国人は、日本語を学んでいます。今号では、外国人住民がどこで、どのように、どんな思いで日本語を学んでいるのか、日本語学習の現場から、生の声をお届けします。

日本語を学ぶ理由——  
仙台的な外国人住民と  
日本語学習

仙台市には17,000人を超える外国人住民が暮らしています(※1)。IT技術が進化し、多言語表記が普及しても、日本社会で生活するには日本語が不可欠です。留学生は大学や日本語学校で学べますが、就労者や家族で来日した人は学ぶ場所を自ら探す必要があります。

日本では国が定めた日本語教育制度がなく、長年地域のボランティア教室が学びの場を提供してきました。仙台では1988年に「せんだい日本語講座」が開講されて以降、市内に約10か所の地域日本語教室が開設されています(図1)。

泉区唯一の日本語教室「泉日本語サロン」(2002年設立)は、学習者とボランティアがペアで学ぶ形式で、毎週20名ほどが参加しています。アメリカ出身で在日5年のQさんは、「日常会話はできますが、仕事で使う日本語が難しいため、ここで勉強しています」と話します。この日は書道体験も行われ、日本の文化に触れる機会も提供されていました。

※1 2025年2月1日現在  
17,430人



泉日本語サロンでは  
固定のペアで学習をします。

夜間開催の教室としては学生サークル「HANDS(ハズ)」(2001年設立)があり、東北学院大学五橋キャンパスで週2回、夜7時から9時まで開講されています。日本語教員養成課程の学生が中心となり運営する教室には、毎回多くの学習者が集まっています。留学生Aさんは「ここに来ると楽しいし、日本人の友達もできる」、ALT(語学指導助手)のBさんは「仙台駅近くで仕事後に参加でき便利」と語ります。



現在はオンラインでも学習が可能です。

また、教室に通わず、自分のペースで学ぶ方法もあります。「SenTIA 日本語ボランティア」は、学習希望者と登録ボランティアをマッチングする制度です。フィリピン出身のMさんは「娘のために学校の先生と日本語で話せるようになりたい」と会話練習に励んでいます。子育てをきっかけに、日本語学習を始める外国人住民も少なくありません。

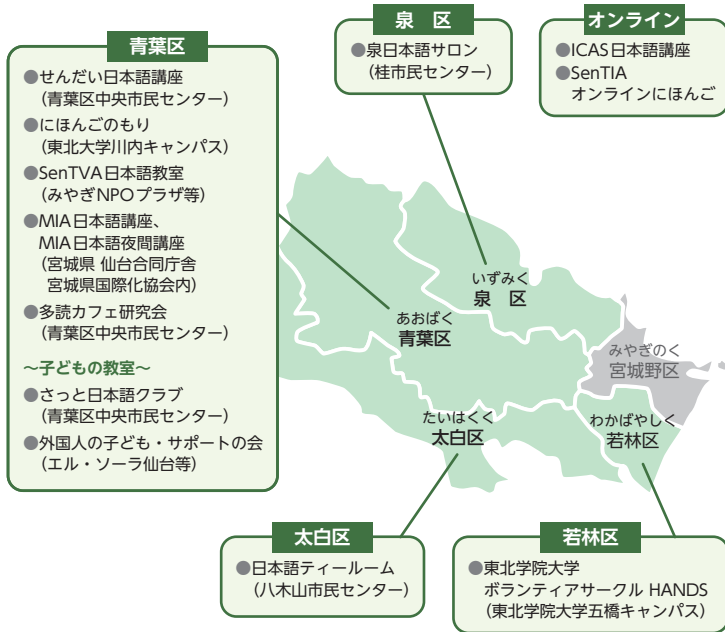
### 時代に合わせた新しい学びの場

外国人住民の学習動機や生活スタイルが多様化する中、SenTIAでは新たな学習の選択肢を提供しています。

2022年に始まった「SenTIA オンラインにほんご」は、自宅から参加できるオンライン教室です。仕事や育児で通学が難しい人向けに、基礎の日本語と生活情報が学べるカリキュラムが用意され、2か月のコースを年2回開催しています。

さらに、2025年1月からは「せんだい「おやこでにほんご」を試験的に実施。未就学児を持つ保護者向

図1 仙台市内の日本語教室 (2025年3月現在)



資料を見ながら学習する様子

けの、子育て関連の日本語を学ぶ講座です。「病気・病院」がテーマの回にはネパール、中国、モンゴル出身の母親たちが参加し、受診時に使う日本語フレーズを学びました。

### わたしたちと外国人住民をつなぐ「やさしい日本語」

このように、外国人住民の多くは日本語を学びながら生活しています。国の調査では、8割の外国人住民が「日常生活で困らない程度に会話ができる」と回答しました(図2)。しかし、日本語は敬語や熟語が多く、習得が難しい言語です。共生のために、日本人側の配慮も求められます。

その一つが「やさしい日本語」の活用です。もともとは災害時の情報伝達のために生まれたもので、「優しい」と「易しい」の両方の意味を持ちます。ゆっくり、はっきり話し、一文を短くすることで、より理解しやすくなります。

近年、やさしい日本語で情報を発信するメディアも増えています。「河北新報」の「やさしいにほんごニュース」は、宮城のローカル情報を外国人読者が理解しやすいよう、文化的ギャップも考慮した内容

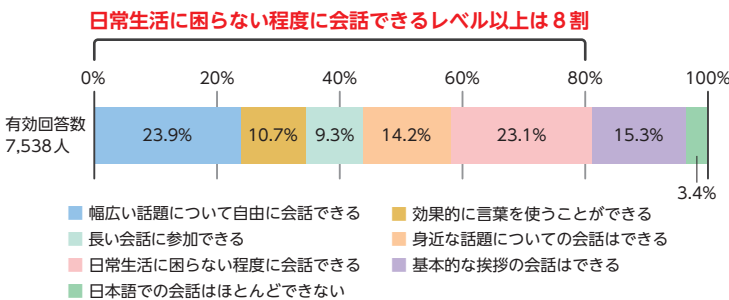
で発信しています。もし困っている外国人を見かけたら、勇気を出して「やさしい日本語」で話しかけてみましょう。言葉よりも大切なのは、相手を思いやる気持ちです。「こんにちは」と声をかけ、相手の反応を見ながらコミュニケーションをとることが、多文化共生の第一歩。仙台を誰もが暮らしやすい街にするために、あなたも「やさしい日本語話者」になってみませんか？

### SenTIA 地域日本語教育ポータルサイト

各教室のくわしい情報は、SenTIA 地域日本語教育ポータルサイトをご覧ください。  
<https://www.int.senia-sendai.jp/nihongo/>



図2 在留外国人の日本語能力(話す・聞く) ※回答者の自己評価



出入国管理局「在留外国人に対する基礎調査(令和3年度)」  
 ※来日1年以上で18歳以上の中長期在留者及び特別永住者から計40,000人を回答対象者として無作為抽出

### P7 CIR 通信 「新聞記者のやさしい日本語」

仙台市国際交流員(CIR)が河北新報の「やさしい日本語ニュース」を担当している記者にインタビューしました。その時の感想を掲載しています。こちらも併せて、ぜひご覧ください。

## 「教える」ではなく、「わかりあう」 座談会 学生による夜間日本語 教室「HANDS」

平日の夜、多くの外国人と日本人学生でにぎわう場所があります。東北学院大学のボランティアサークル「HANDS（ハズ）」です。このサークルには、日本語教育を専攻している学生だけでなく、経済や法律、歴史などさまざまな学科の学生が参加しています。今回は3名の学生さんにHANDSに参加したきっかけや活動を通して感じたことなどをお聞きしました。

も参加しています。学習希望者の登録は100名以上で、新規の申込者にはキャンセル待ちをお願いしている状態です。

**高橋** 開催日には、会場を「勉強」と「トーク」の部屋に分けて個別またはグループで活動します。「勉強」の方は日本語教育を学ぶ学生が対応し、テキスト等を使って勉強します。「トーク」は私のような他の学部

の学生が対応することが多く、会話が中心です。

—みなさんは、どういったきっかけでHANDSに入ったのでしょうか？

**佐久間** もともと「言語」に興味があり、自分も学びながら誰かを喜ばせることができたらいいなと思いついて、参加するようになりました。また、今まで挑戦したことのない経験をしてみたいという気持ちもありました。

**高橋** 日本語がうまく伝わらないときは難しさを感じます。例えば、ゆっくり話すと理解でき

る人もいれば、単語を使つて伝えた方がいい人もいて、工夫が必要ですね。伝わらないときは絵を描いたりジェスチャーを交えたりすることもありますが、顧問の佐藤先生から「HANDSは言葉を通して繋がる場」と言われていたので、なるべく日本語で伝えようと頑張っています。

**佐久間** 普段何気なく使っている日本語に対して、思いもよらない疑問を投げかけられることがあります。それがすごく面白いですし、自分も日本語をもっと深く学ぶことができます。日本語の複雑な文法用語を使って理解や整理をしている学習者もいて、私自身も学びを得ています。彼らが仲間を見つけたら、話せるフレーズが増えて、どんな笑顔になっていく姿を見るのも嬉しいですね。

—最後に、HANDSの活動を通して得られたものは何ですか？

**高橋** 地域に住む外国人との関わり方や、彼らが抱えるさまざまな悩みを知れたことです。一緒に解決策を考えることで、自分自身の気づきも得られました。また、彼らとの交流を通して、人とのつながりの大切さを改めて感じました。

**佐久間** こんなにも「学びたい、社会や人とつながりたい」というエネルギーを持った人がたくさんいることに驚きました。私たちの活動に対するニーズや熱い想いを感じ、たくさんの刺激を受けています。また、同じ

教科書を使つても学習者一人ひとりの捉え方が異なるので、言語を深く掘り下げる楽しさを改めて実感しています。自分が本当に好きなことをしているんだなと感じる瞬間が多く、それが私にとって大きな成長につながっています。

**高橋** 一つは「友情」です。外国人参加者とは、帰国後も交流が続くためとても嬉しいです。それから、相手の立場に立つて考えたり、「ここ困っているんじゃないかな」と相手の動作や表情から読み取る視点を得ることができました。この「視点は、社会の中でも大切なコミュニケーション能力で、私にとって非常に大きな財産になっています。



**佐久間 いずみ** さん  
東北学院大学 教養学部  
言語文化学科3年生。現  
HANDS代表。



**菊池 優月** さん  
東北学院大学 教養学部  
言語文化学科4年生。日  
本語教員養成課程受講。  
前年度HANDS幹部。



**高橋 昌汰** さん  
東北学院大学  
経営学部経営学科4年生。  
HANDSメンバー。

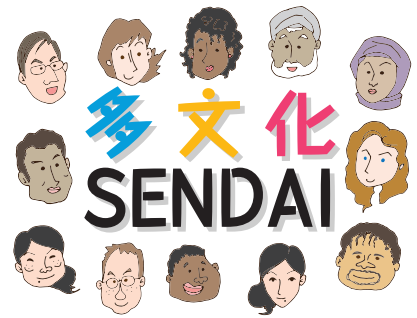
### ●HANDS（ハズ）とは…

仙台・宮城に住む外国人に日本語学習の場を提供している、東北学院大学のボランティアサークル。活動は週に2回、火曜日と金曜日の夜7時~9時。活動日などの最新情報はFacebookをご覧ください。  
<https://www.facebook.com/groups/533411630467004>  
 お問い合わせは 2001hands@gmail.com まで。



### ●佐藤 真紀 先生（東北学院大学教養学部准教授・HANDS顧問）より

HANDSのボランティア学生は、実は日本語教育を専門として勉強していない人が多数派を占めています。コミュニケーションを「教える」という場ではなく、コミュニケーションを通して地域に住む外国人を「知る」機会だと捉えています。お互いに理解し合おうとする場になるよう、幹部のみなさんと一緒に考えながら運営しています。



仙台で活動する外国人コミュニティや  
多文化共生・国際交流団体を紹介します

## 白い馬の会

### 団体紹介

団体名の「白い馬」は、モンゴル人にとって幸運のシンボルで、友のような存在であるという意味から、メンバーで話し合い決定。今後もモンゴル文化を伝えるイベントを定期的に開催予定。活動に興味のある方は、shiroiuma\_2016@ymail.ne.jpまで。

白い馬の会は、「子どもたちにモンゴルの言語を継承したい」という思いを持つ在仙のモンゴル人が集まり、2016年に結成されました。結成から数年間は、モンゴルにルーツを持つ子ども向けの教室を開いていました。現在は、モンゴル文化を市民に紹介し、交流を深める活動をしています。昨年11月には、市民図書館と共催で「モンゴル絵本の世界」というイベントをせんだいメディアアテークで開催。日本在住のモンゴル人絵本作家ボロルマーさんとガンバートルさん夫妻を招き、ご本人による読み聞かせや製作の裏側紹介のほか、絵本の原画や馬頭琴、伝統衣装の展示も行いました。会長の藤井さんは、「たくさんの方にご参加いただき、モンゴルの絵本だけでなく、衣装や楽器、生活にも興味をもってもらえて嬉しかったです。モンゴル



絵本作家ご夫妻から製作の裏側について、写真や絵コンテを見せながら説明しました。

の歴史は古くて長く、もし興味をもってもらえたら、みなさんの世界が広がると思います。音楽や歴史、観光、絵本…どんな切り口でも構いません。モンゴルのことが気になったらぜひ調べてみてください。」と話していました。

## 外国につながる子どもたち

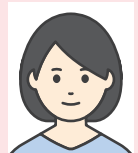


多様な子どもたちが学ぶ学校の様子を現場の先生に伝えてもらいます

### 小松島小学校 日本語学習の風景（その2）

かわが やすこ  
香川 泰子 非常勤講師

外国人の日本語支援を始めて17年。小学校での子どもの日本語指導は6年目で、小松島小学校は2年目。趣味は読書、手芸、旅行、ピアノを弾くこと。



「だから日本のアニメでは、月からウサギが来るんだ」とモンゴル出身で3年生のAさんは納得顔で言った。この日は絵本を読んで、お月見の話をした。お団子を食べて、ススキを飾って、満月を見上げるとウサギの餅つきが見える、という定番は日本だけのものらしい。彼女の国には月を見る秋祭りはなく、月の中にはユニコーンがいるそうだ。とても面白がって、「今日、お団子を買って食べてみる。」と言った。ネパール出身で5年生のBさんとは、取り出し授業で台風の話をした。日本地図を広げて海の名前、県名などを確認しながら台風のコースをたどる。また季節ごとの天気の特徴を確認する。雨風の表現としてオノマトペを使ってみる。台風が来た時の防災についても話題にした。彼は「休校になることが



テストは、地図やグラフの読み取りが多くなり、難しい言葉が多いですが、頑張ってチャレンジしています。

あるんだね。知らないで来たことがあった。」と真剣に聞いていた。日本語での日常会話は問題ないが、「天候」資料など理科や社会によく出てくる言葉でも難しく、教室では聞き取れないことも多いという。身近なことから、言葉を増やしていければと思う。

### 仙台で はたらく



**ヒルワ ハウダさん** / インドネシア・プカシ出身。インドネシアで日本語の通訳として仕事をした後、2023年来仙。現在は人材紹介系の会社で、外国人の支援や通訳を行っている。健康的な日本食の習得に挑戦中。

子どもの頃に見ていたアニメから日本が大好きになり、インドネシアの大学では日本語を勉強しました。卒業後も日本に関わる仕事を続けています。仕事の関係で仙台に住むことになりましたが、生活してみると、仙台はにぎやかすぎず、静かすぎず、とても暮らしやすい街で、すぐ好きになりました。

仕事では、特定技能の在留資格で働いているインドネシア人などの仕事や生活のサポートをしています。よく文化の違いに関する相談を受けます。例えば、インドネシアでは仕事でミスをしたとしても大勢の前で叱らず、個別にそっと教えることが一般的です。そのため、日本の職場でシヨックを受けてしまう人が多いです。私は自分自身の経験から、日本人は仕事に真剣だからこそ叱るのだと感じています。インドネシア人にはそうした日本人の考え方を伝え、逆に会社の担当者にはインドネシアの文化・習慣を説明し、お互いが気持ちよく働けるよう尽力しています。私も、仕事での経験や仙台での生活を通してもっと成長していきたいと思っています。



相談を受けている様子。

### 子育て せんだい



**孫 冬梅(ソントウバイ)さん** / 中国・吉林省長春市出身。東北大学・社会教育学生涯学習領域にて学校と地域の関係構築を研究中。SenTIAせんだい留学生交流委員。夫と3歳になるお子さんとの3人家族。

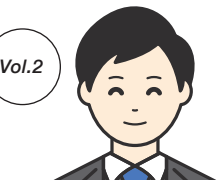
2020年に夫と仙台に住み始め、2021年11月に息子を出産しました。出産直前まで研究調査で遠くまで頻繁に出かけていたため、指導教員も驚いていました。研究者には産休や育休がないため、出産後は大学と相談し、4か月後には子どもを保育園に預けて大学に復帰しました。

子育てを始めてから、いろいろと感じたことがあります。私は大学で日本語を勉強していたので、「です」「ます」調のような大人と話す日本語はわかりませんが、保育園で使う日本語は初めて聞く言葉が多く、戸惑いました。外国人の私にとって、「おてて」「あんだよ」「ちようだい」などの言葉は馴染みがなく、出産前に勉強しておきたかったと感じています。また、母語の悩みもあります。最初は、保育園に慣れるために家の中でも日本語だけで生活していましたが、中国の祖母から、中国語で孫とコミュニケーションが取れないことを指摘されました。今は夫が日本語で、私が中国語で子どもと話すようにしています。そのおかげで、子どもも少しずつ中国語が理解できるようになりました。イヤイヤ期の対応やこれからの成長を考えると子育ての心配は尽きませんが、同胞のコミュニティや先輩ママに相談しながら、日々の子育てを楽しんでいきたいと思っています。



家族で雪景色を楽しみました。

### 留学生サポートの現場から



**玉澤 大助(たまざわ だいすけ)さん** / 東洋国際文化アカデミー教務部勤務。塩竈市出身。学生の生活などのサポート業務。趣味はクラシック音楽、旅行、温泉、園芸、畑。

「救急隊です。学生が救急搬送されました。急いで病院へ来てください。」

時々、このような連絡が救急隊や警察から入ります。バングラデシュ出身のJさん(現在は卒業)は、自転車でアルバイト先に向かう途中に転倒し、入院。手術が必要になりました。仙台で勉強するために来たのに、学校を休まなければならず、家族と離れた地でも心細かったと話していました。

Jさんは「病院のお金はいくらかかりますか」と治療費を自分で払えるか心配していましたが、国民健康保険制度と任意保険のおかげで、彼の負担はほぼなく、無事に治療を受けることができました。「自国ではお金がなく、十分な医療を受けられない人がたくさんいます。将来、国へ帰ったら日本のような制度をつくるという夢ができました。先生、手伝ってくれてありがとうございます。」と彼が目を輝かせて話してくれたのを今でも鮮明に覚えています。

学校でのサポートは、学生の相談、制度の説明、手続きの手伝い、病院への付き添いや通訳、保険会社とのやり取り、さらには警察や弁護士との対応など、多岐にわたります。Jさんのように、学生たちが笑顔で毎日を過ごせるよう、これからもサポートを続けていきたいと思っています。



学校で書類の記入を手伝っています。

# CIR通信 Vol.10 新聞記者の「やさしい日本語」

仙台市国際交流員（CIR）がSenTIAで携わっている多文化共生事業について紹介します。

## CIR テシア

カナダ・バンクーバー出身。  
来日3年目。  
猫とコーヒーが好き。



## CIR イーライ

アイルランド・コーク出身。  
来日2年目。  
小説と登山が好き。



今回は  
イーライから  
紹介します！

※国際交流員（CIR：Coordinator for International Relations）  
JETプログラム（政府の外国青年招致事業）で来日し、自治体の国際交流担当部局等で国際交流や多文化共生事業に携わっています。  
仙台市には現在、2名のCIRがいます。

みなさん、こんにちは。今回は、SenTIAの多言語ラジオ局「ようこそせんだい」の特別版で、仙台市の新聞社「河北新報」の記者にインタビューした内容をお届けします。

「ようこそせんだい」は、仙台に住む外国人住民とSenTIAスタッフが、季節の話題や生活情報などを多言語でお届けするトーク番組。市内のFM4局で放送中です。私たちCIRが担当する「特別版」では、気になるゲストを迎えて外国人視点のインタビューをしています。

2024年10月～12月のゲストは、「河北新報」の記者 神田一道さん。Web記事「やさしいにほんごニュース」を担当しています。今回は外国人のための「やさしい日本語」について、言葉紡ぎのプロである新聞記者の視点からお話を伺いました。

神田さんの話で特に印象的だったのは、日本人と外国人の間にある常識や知識のギャップについて。どんなに言葉を易し

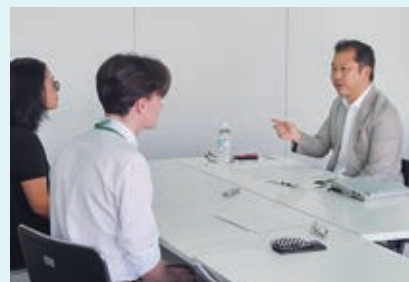
くしても、そのギャップを意識しないと外国人読者に伝わらない、という話が心に残りました。例えば、夏の海水浴場の海開きを伝える記事。海外ではわざわざ泳げる場所や期間を決めていない国も多く、「海水浴場って何？」という疑問が生まれます。そこで神田さんは、記事の冒頭に日本の海水浴に関する説明を付け足しました。こうしたギャップを埋める作業が、外国人にとって読みやすい記事作りにつながります。

次回2025年1月～3月の放送では、留学生が年々増える東北大学で行われている、日本人学生と留学生が共に学ぶ「国際共修」に関するインタビューを予定しています。どんなお話が聞けるか、お楽しみに！

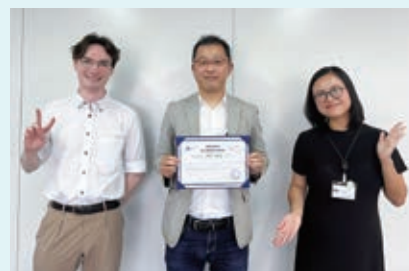
過去の放送回はホームページから確認することができます。ぜひお聴きください！

多言語放送局

「ようこそせんだい」特別版▶



河北新報 神田さんとのインタビュー



神田さんが手に持っているものは、ルーマニアの大学からの感謝状です。どのようなエピソードがあったのでしょうか。インタビューの内容はSenTIAブログでも紹介しています。  
<https://int.senia-sendai.jp/blog/jj-28675/>



## SenTIA サポーター（国際化事業部 賛助会員）募集中！

言葉や文化の違いをこえて、誰もが生き生きと暮らせる「多文化共生の地域づくり」に向けて、皆様からの支援をお待ちしています。事業にご賛同いただける方は、どなたでもお申し込みいただけます！

### 会員の種類／会費（年度ごと）

学 生／1口 500円    個 人／1口 1,000円  
市民団体／1口 2,000円    法 人／1口 5,000円

申込方法等は、ウェブサイトをご覧ください。  
市民団体・法人会員のサポーターも紹介しています。

<https://int.senia-sendai.jp/j/activity/supporter.html>



### 2024年度登録の 市民団体会員のご紹介

#### ●グループ杜

国際間の相互理解を目的とし40年にわたり留学生の日常生活を支援しています。東北大学構内のほか、国際交流会館や会員の自宅などで様々なイベントも開催。年間200人以上の留学生との交流に努めています。

<https://morigroup.jp/>



# 仙台多文化共生センター をご利用ください

TEL 022-224-1919



仙台多文化共生センターでは、仙台で暮らす外国人住民の相談に多言語で対応しています。地域や学校、公的機関等からの相談にも応じています。お気軽にご利用ください。



## 通訳サポート電話 TEL 022-224-1919

3者間通話ができる電話を使って外国人住民への生活情報の提供と、通訳によるコミュニケーションのお手伝いをします。区役所・市民センター・保育所・学校などで、外国人住民とのコミュニケーションでお困りの際にご利用ください。(商用利用はできません)

## 外国語による相談対応

外国人住民の日常生活での困りごと、悩みごとに、外国語で対応します。

**対応言語** 英語、中国語、韓国語、ベトナム語、ネパール語、タガログ語、タイ語、ポルトガル語、スペイン語、ロシア語、インドネシア語、イタリア語、フランス語、ドイツ語、マレー語、クメール語、ミャンマー語、モンゴル語、シンハラ語、ヒンディー語、ベンガル語、ウルドゥー語、ウクライナ語

## 外国人のための専門相談会

在留資格、法律、仕事で困っていること、行政手続き、税金、起業・経営などについて、専門家に相談できます。事前申込が必要です。通訳も無料で申し込みます。詳しくはお問い合わせください。

**2025年3月以降の予定** 時間はすべて1:00 p.m.～4:00 p.m.

※開催日が変更になることがあるので、ウェブサイト(右側のQRコード)を確認してください



仙台出入国在留管理局	仙台弁護士会	宮城県行政書士会	宮城労働局	東北税理士会	仙台市企業支援センター アシ☆スタ
毎月第4金曜	毎月第2金曜	毎月第1土曜	奇数月の第3木曜	次回予定はウェブサイトでご確認ください。	次回予定はウェブサイトでご確認ください。

## 仙台多文化共生センターは移転しました。

2025年2月17日から

住所 仙台市青葉区国分町3丁目6-1  
仙台パークビル1階

毎日 9:00 a.m.～5:00 p.m. (休館日はウェブサイトからご確認ください)

TEL:022-265-2471 FAX:022-265-2472

Email: tabunka@sentia-sendai.jp

仙台多文化共生センターは、仙台市の委託を受け、(公財)仙台観光国際協会(SenTIA)が運営しています。

